

## 議 事 概 要

### 1 会議の名称

第3次長久手市子ども読書活動推進計画第3回策定委員会

### 2 開催の日時

令和4年10月21日(金)午後3時から午後4時まで

### 3 開催場所

中央図書館 2階 AV ルーム

### 4 出席者

委員長	青木文美
副委員長	中西由香里
委員	竹内双葉
委員	高橋浩子
委員	鈴木節子
委員	鈴木直美
委員	山田真理子

(事務局)

教育部次長	川本保則
中央図書館長	二之部香奈子
図書係長	水野香織
同係主事	田中絵里子

### 5 欠席者

無し

### 6 会議の公開・非公開

公開

傍聴 1人

## 7 議題

(1) 第3次長久手市子ども読書活動推進計画書(案)

## 8 問合先

長久手市教育委員会 中央図書館

TEL 0561-63-8006

## 議事録

開会 委員長あいさつ

### <議題 (1) > 事務局 資料説明

委員長 質問や感想がありましたらお聞かせください。

副委員長 2点、文言で気になったところを申し上げます。16ページの5(2)「授業等での本の活用」について、「総合的な学習の時間や調べ学習など」とありますが、「調べ学習」という名称から探究学習へ変わってきています。この計画は0歳から18歳までを対象年齢を明確に提示しており、高等学校では総合的な学習の時間が総合的な探究の時間へ名称変更されているため、「調べ学習」という文言は「探究学習」の方が適切かと感じました。もう1点ですが、17ページの1(3)「障がいのある子どもへのサービス」についてですが、現在、「特別な支援を必要とする子どもへのサービス」として児童サービス論等のテキストでも表現が変更されてきています。そこには外国籍の子なども含まれ、多様性ということが大事だと思いますのでこちらも検討していただきたいです。

委員長 これから5年先を考えた文言は重要なところですが、今後の完成版の作成のために、伺った内容を精査したいと思います。

委員 保育園のを中心意見申し上げます。保育園もやっとコロナと上手に付き合っていく形で絵本の貸出をこの秋から再開しました。保育園と図書館の連携の大切さを感じており、いずれは団体貸出の目標6園を掲げているため、色々な形で図書館と関わりが深まっていけばいいと思いました。保育園からも図書館と連携している取組内容等を保護者の方へ伝えられればいいと感じました。

**委員長** 保育園側から保護者の方へ取組を発信していくことは、保育園の役割だと思いますのでぜひお願いしたいです。

**委員** 小学校で素敵な本が増えていると伺っており、現状値から目標値に向けて更に増えていくのが楽しみです。また、タブレットの利用が増えていることについてですが、本とタブレットをうまく両方活用する方法を学校で見つけていかなければならないと思いました。このままだとタブレットのみの利用になってしまう気がします。

**委員長** タブレットのようなデータ化された資料と紙媒体である本はそれぞれに良いところがあり、また一方で重なるところがあります。一方だけの利用を促進するのではなく、うまく共存させて利用していくことは図書館側の課題でもあり、教育現場での課題でもあると言えます。ぜひこれから先、いただいた意見を基にしつつ本を増やす、活かすというところをご協力頂ければと思います。

**委員** 資料の訂正をお願いします。37ページの令和4年10月の欄で「第3次長久手市子ども読書活動推進計画第2回策定委員会」ではなく、第3回です。それから1ページの「2 計画目的」の上から4行目ですが「家族で読書を楽しむ子どもが増える」とあります。家族で読むことももちろん大切だと思いますが、子どもが必ずしも家族とともに読書をするかと言われるとそれはないと思います。家族と言い切るのは難しいのではないのでしょうか。中高生の子たちが親と一緒に読書をするとも思えません。私には適切な表現が思いつきませんが、別のニュアンスで表現できませんか。また、14ページの1(1)「乳幼児期からの読書活動の支援」と15ページの4(1)「中央図書館から保育園・幼稚園への図書貸出」について、それぞれブックスタートパック配布数と保育園・幼稚園の団体貸出実施園数が指標となっていますが、他の重点施策の指標では毎年1%増加を目標としていることは理解できますが、ブックスタートパックの配布数や保育園幼稚園の団体貸出実施数は数字を設定するのではなく、全ての赤ちゃんに配布する、市内全ての園に実施する、という気持ちで取り組んでほしいと思います。目標を数値で表すことについて違和感があります。あと表現についてですが、14ページの2(2)「声かけレファレンス」について、「レファレンス」という文言が市民に普及しているとは思えないため、単語説明を加えるべきだと思います。

## 委員長

計画の目的である「家族で読書を楽しむ子どもが増える」は家読とつながる文章になるため、例えば、「家で」という表現にするのがよいのではないのでしょうか。また、ブックスタートパック配布数や団体貸出(保育園・幼稚園)の目標値についてはおっしゃるとおり、全ての赤ちゃんに配布、市内全園で実施、とするのが望ましく、それが最終目標と思います。一方で数値化して目標を定めることで指標として分かりやすくなると思います。次の5年に向けてはこの数値でまずは目標値を定め、そこには当然開拓していくものも必要になるかと思いますが、事業を行う中で考え、結果を受け止めて、「次に進む」という形で成果をあげていくことになると思います。いただいたご意見を事務局でも検討していただきます。レファレンスサービスについての文言は誰もが分かるように、より丁寧に解説する必要があると思います。

## 事務局

14ページの1(3)「乳幼児期からの読書活動の支援」のブックスタートパックの配布数についてですが、ご意見のとおり、事務局は全ての赤ちゃんに配布することを目指しています。ただ今の方法では難しいという現状もあるため、配布数を伸ばすために新たな方法で配布できないか、保健センターと打合せを始めたところになります。保健センターで実施している乳幼児健診は3、4ヶ月児健診と10ヶ月健診や、1歳6ヶ月健診があります。どの健診も参加率は90%を超えます。乳幼児健診での配布が実現すれば、ブックスタートパック配布数は変わると思われます。実現には時間がかかりますが、適切な方法で行っていきたいと考えています。また、14ページの「声かけレファレンス」の「レファレンス」という文言については、20ページの資料1の用語解説のところに入れたいと思います。他にも専門的な言葉の解説もしておりますので、他に解説すべき単語がありましたらご教示ください。

## 委員

5年後を見据えての計画とのことですが、14ページの1(1)「乳幼児期からの読書活動の支援」ですが、1回目の委員会るときから、なぜ保健センターで連携してブックスタートパックの配布が行えないのか不思議に思っていました。保健センターでは離乳食教室というものが行われていますが、その終わりに一言ブックスタートの紹介をしていただけたらそれだけでも効果はあると思います。時間もかからないと思いますので実施していただけると嬉しいです。もう1点、18ページ3(3)「図書館ボランティア

などの活動を紹介」について、指標がホームページで図書ボランティア団体の活動紹介数とありますが、こちらを増やすためにはどのような流れになりますか。利用者から事務局へ「こういったボランティア活動がしたい」と申し出ればよいのでしょうか。それとも事務局から新しいボランティアについての募集があるのでしょうか。

**事務局**

現在図書館のホームページでは個人も含めて7団体紹介しています。目標値は10団体とし、残りの3団体について具体的なものはまだありませんが、将来的に図書館を盛り上げていくために増やしていきたいと、他の分野へ手を伸ばしたいと考えています。こちらから募集をかける場合もあると思いますが、市民の皆様から「こういった活動がしたい」という申し出は事務局としては大変ありがたいです。

**事務局**

例えば、18ページの3(2)「館内におすすめ本紹介文(POP)掲示」とありますが、こちらはワークショップなどでいただいたご意見を参考に今回新規で取り入れた取組になります。中央図書館では職員で出来る範囲でPOPなどを掲示していますが、限界もあるため、そういったボランティアを新しく募集することも検討しています。他にもワークショップなどで出たご意見を参考に事務局で新しくできることを考えていきたいと思っています。

**委員長**

こういうボランティアがあればいいのではないかというご意見があれば事務局へお知らせください。

**委員**

今のボランティアの話と関連して、ブックスタートについてですが、保健センターでのブックスタートパックの配布を真剣に考えてほしいと思います。ただ、誰でも出来るわけではないと思いますので、読み聞かせができる方を養成する講座を開講する等してほしいです。以前開かれた講座では、ブックスタートの専門の方に講師をしていただいたかと思いますが、同じようにそういったボランティア養成講座を図書館で開催し、受講された方々でボランティアグループを立ち上げ、保健センターへ出向き、ブックスタートの読み聞かせをしてほしいと思います。ボランティアが増えるという点と、ブックスタートの内容の充実という点の二つが叶うと思います。もう1点ですが、私は児童書について勉強しており、現在読み聞かせボランティアとして活動していますが、同じように児童書サービスボランティアとしても活動しています。コロナ禍でできなく

なってしまいましたが、新型コロナウイルス感染症が流行する前は児童書のエリアで子どもを連れて保護者の方へ声をかけ、おすすめの本を紹介したり、子どもにちょっとした読み聞かせをしたりしていました。児童書サービスボランティアが増えればいいと思いました。

#### 委員長

図書館を盛り上げていくために本があることは当然ですが、本と読者である子どもたちを繋ぐ人の存在が必要だと思います。これだけ具体的にアイデアをお持ちであることも踏まえて、次の5年に向けて、頂いたご意見を参考に活動内容を充実させていただきたいと思います。また、コロナ禍での活動が難しいのであれば、その期間はボランティアを育てるという時間に充て、5年先に向かっていくことが必要であると感じました。今いただいたご意見を加味しつつ計画を完成させていきたいと思います。何か他にご意見ご感想ありませんか。

#### 副委員長

先日高等学校の司書教諭の方とお話しする機会があり、県立図書館からの相互貸借で、近隣の高等学校から本が古くて無いと先生から伺い、ショックでした。身近な市の図書館との連携がどうなっているのか不思議に感じました。高等学校の様子を伺いたいというのが1点あります。また皆様のご意見を伺い感じたことですが、2ページの4「計画の対象」が0歳から18歳までとありますが、より具体的にするために保育園や幼稚園など校種を記載するといいのではないのでしょうか。例えば16ページの5について、高等学校のイメージがあまり湧きません。中高生の子どもたちの読書率があまり良くないと思われまますので、なんとか本が身近に届くように文言の中で「高等学校」や「特別支援学校」など入れていただくと図書館との連携がイメージできるのではないのでしょうか。

#### 事務局

高等学校と関わっている現状を申し上げます。市内には長久手高校と栄徳高校の二校あります。二校の学校図書館へ出向き、何か連携ができないか伺いました。二校ともぜひひとのことでしたので連携を始めました。最初に始めたのが、学校図書館だよりの掲示です。学校図書館に訪問した際に、図書館だよりをを見せていただいたところ、とても魅力的でした。現役の高校生が読んでいる本をうまくまとめて紹介されていましたので貼らせていただけないかと相談したところ、承諾していただきました。中

中央図書館1階閲覧室のY・Aコーナーの近くの柱に掲示しています。お時間ありましたらご覧ください。また、長久手高校との連携で、年に一度、高校生が学校図書室で人気な本のPOPを作る活動をしており、非常に素晴らしく、わかりやすく魅力的だったため、それをそのまま中央図書館に貸していただけないか打診しました。4年ほど前から年に一度、高校生が作ったPOPと本を中央図書館の目立つところに30冊から40冊展示しています。非常に人気の展示ですぐに本が借りられていきます。また、17ページの1の指標で「中高生向け専用棚の年間の貸出冊数」とあり、令和9年度の目標値が6,500冊とあります。統計値を出すときに年齢別の統計値も算出することができるのですが、中高生に限らず、30・4代のおそらく保護者の方も多く借りられていることが分かりました。中高生に特化しているつもりではありましたが、他の年代の方にも借りていただいているため、今後も充実させたいと考えています。

#### 委員長

文言の中に全てを凝縮して盛り込むことは難しいですが、言葉になっていないところでの取組や連携が一方にはあることを皆様にも知っていただき、最も重要であることを文言に入れていくことが重要と考えています。そういう状況の中で抽出してきた文言がこの計画書に盛り込まれていることをご理解いただけると非常にありがたいです。

#### 委員

南小では9月から1年生のチャレンジ読書という取組を開始しました。これは学校連携司書によって選書された100冊のうちから子どもたちが読み、読んだら丸付けしていくという取組です。中には100冊全て読んだ子もいます。最初は『ミッケ』などの迷路の本などを読んでいた子が読み物を進んで読んでいる姿が見られました。6ページの課題にもあるように、本が好きな子はたくさん読む一方で、嫌いな子全く読まないというように差があります。本が嫌いな子は、今まで読書の経験があまりなかったからだと思うので、1年生のうちから本が好きな児童を増やす取組を行っています。それからは小学2年生、3年生と取組を進め、6年生まで無理なく育てていきたいと思っています。各校の特色があると思いますが、読み物の本を手にする機会はたくさんあるべきですが、教員は日々の業務に追われ、本のことまで手に届かないという現状があります。学校全体で1年生から本が大好きになるような取組を行えば、子どもが変

わっていくことを感じました。学校連携司書は全校に来ていただいているので、年間計画などで学校連携司書の取組内容を学校へ紹介してほしいです。読書に関する取組が盛り上がっていくと思います。

**事務局**

チャレンジ読書についてですが、学校連携司書から日誌で報告をもらっています。南小以外の小学校でも実施されている大人気の企画と把握しております。また、ささやかではありますが、学校連携事業の内容を一般の方に見ていただける機会として年報があります。最新で『図書館年報－令和3年度のまとめ－』を中央図書館のホームページへ掲載しており、38ページに学校連携司書の事業内容、学級文庫や調べ学習の統計値を掲載しております。よろしければ年報もご覧ください。

**委員長**

図書館が地道に読書に関する活動について下支えされていることがよく分かる様々な事例だと思えます。長久手市は子ども読書に真剣に取り組んでいると会議に参加する度に感じました。そういった状況が今後5年間、当たり前が続いていくような取り決めにしたいと思えます。そうなるように市民の方達も積極的に図書館の活動に参加していただきながら、図書館を盛り上げていくことができれば、子どもたちが読書の楽しさを知り、次の時代の長久手市民を育てると思えます。いただいたご意見を反映させつつ、完成版を作成していこうと思えます。これを持ちまして、第3次長久手市子ども読書活動推進計画第3回策定委員会を終了します。事務局にお返しします。

**事務局**

議事進行ありがとうございました。本日はありがとうございました。